

ひかりの郷 日光国体 を応援しよう!!

平成26年 1月28日(火)～2月2日(日)開催

平成26年1月28日(火)から、市内において第69回国民体育大会冬季大会スケート競技会・アイスホッケー競技会「ひかりの郷日光国体(以下、日光国体)」を開催します。全国各地から水上の精鋭たちが集まり、熱い戦いを繰り広げます。皆さんも、ぜひ会場に足を運び、熱い応援で日光国体を成功させましょう。

◆18年ぶりの冬季国体開催

日光での冬季国体の開催は、平成8年以来、18年ぶりです。大会の名称は、日光の「ひかり」、国際都市日光市の「ひかりの郷」から、参加選手が銀盤の上で光り輝く姿をイメージして名付けられました。スローガンの、「リンクに競う夢と感動広がる未来」には、選手たちがリンクで技を競い交流を深め、夢と感動を未来へ大きく広げていって欲しいという願いが込められています。さらに、「とどげよう スポーツの力を東北へ!」を合言葉に、東日本大震災からの復興を遂げる栃木県、日光市の姿を広く全国に発信します。

◆日光国体の開催に向けて

国体実行委員会は、スポーツを通して人々に勇気と感動を与えられるよう、現在、開催のための準備を進

めています。カウントダウンタイマーの設置や、PRバスの運行、市内商店街へのポスター配布、各種イベントの開催など、機運を盛り上げるための取り組みを行っています。また、日光国体キャラバン隊を結成し、大会マスコットキャラクターの「とちまるくん」と一緒に、県内外の各種イベントで大会のPRをしています。

◆日光国体の概要

今大会では、霧降アイスアリーナ、霧降スケートセンター、細尾ドームリンク、今市青少年スポーツセンターの4会場で、スピードスケート、ショートトラック、フィギュアスケート、アイスホッケーの4競技を実施します。いずれの会場も既に改修が行われ、選手が気持ちよく競技できるよう整備されました。

栃木県選手団も、今大会での活躍に向け、日々練習に励んでいます。大会では、新しくなった会場でその成果を大いに発揮してくれることでしょう。

くわしくは

国民体育大会推進課

☎(25)7781

日光国体の成功に向けて 80年の歴史が育んだ 日光のスケート文化

平成23年3月11日に発生した東日本大震災からの克服と、元気を出すことを合言葉に、日光国体が18年ぶりの開催に向かっていく中、私のもとに細尾町から手紙が届きました。それは、細尾リンク創立80年記念の会の招待状でした。私は瞬時にリンクとともにあった日光のスケートの歴史を思い浮かべました。明治の末に、清滝に日光電気精銅所が設立され、外国帰りの重役や、金谷ホテルの外国人観光客から革靴のスケートが伝わりました。そして、奥水沢の私の祖父の屋敷跡に電工リ

ンクが作られました。当時は長野の諏訪湖や盛岡の高松の池など、スケートリンクは天然のものがほとんどでした。

その後、昭和7年に東洋一と言われた日本初の一周40メートルの細尾リンクが誕生しました。これにより、町民や観光客は、最先端のスケートスポーツに親しむことができるようになり、日光の活性化が進みました。私は、まさに当時の日光町の大英断だったと思います。

しかし、困難な時期もありました。太平洋戦争に突入し、スケートリンクは軍隊の訓練場になり、また、食糧不足のため、稲作の場にもなりました。

敗戦となり、再びリンクは私たちのもとに戻ってきました。私が小学

栃木県スケート連盟会長 星野仁氏

生のときは、水が張るのを待って、リンクに飛び出していました。小学校や町内のスケート大会も復活し、冬の楽しみになりました。昭和27年、オスロオリンピックに、戦後初めて日本の参加が国際社会から認められ、日本代表選手が細尾リンクで合宿しました。当時、高校生だった私の胸に、日の丸のユニフォームは、

強烈に焼き付き、スケートを目指す転機となりました。そして、日光高等学校2年生のとき、私は全国高等学校第一回大会に参加し、その後、昭和33年にヘルシンキ世界選手権の日本代表選手に選出されました。このように、私の青春を育んでくれたのは、細尾リンクが象徴する日光のスケート文化であると深く感謝しています。

さて、日光のスケートを考えて

るとき、選手の育成はもとより、日光の冬の観光経済に与える影響は重要です。平成25年1月の日本学生水上競技選手権大会には多くの来訪者がありました。国体にも、選手を含めた何万人もの人々が来訪します。このことから、スケートスポーツに活性化を見出すことが大切です。安倍首相のオリンピック招致演説中の「スポーツの力によって、世界をより良い場所にせん」というのは全く同感です。スケート文化は日光市の発展に必ず寄与します。

最後に選手諸君に言葉を送ります。勝負よりも、自分たちの努力の成果を出し切ることに専念してください。



日光国体に臨んで

自分が主将の年に、地元日光で18年ぶりに国体が開催されることを大変うれしく思います。

国体の開催まで、残すところあとわずかになりました。日光明峰高校のアイスホッケー部は、10月に入ってからほぼ毎日水上での練習をしています。土日も練習に励んでおり、

休みはほとんどありません。試合や遠征も重ね、大会に向けての準備は万端です。

自分たちは日光を代表し、地元の人々の応援を一手に背負って大会に臨むわけですから、大会までもっともつと練習をし、会場に集まった多くの観客の皆さんに感動を与えられるようなプレーができるよう、全力で精一杯頑張ります。

おつゆうせい 大津夕聖さん

(日光明峰高等学校アイスホッケー部主将)

絶対に優勝します。応援よろしく願います。